

「書き初め」

私が子どもの頃、習い事と言えば、「そろばん、習字」が主なもので、クラスの大半は近くのそろばん教室や習字教室に通ったものでした。1月には書き初め大会というものが行われ、私が住んでいた函館では、市内の小中学生を市民体育館に集めて、大会が開かれたほどでした。現在は習い事も様々で、書き初め大会は昔ほど盛んに行われていないようにも思われます。

私は長年書道を続けておりますので、少しさみしい感がありますが、本校では昨年度に引き続き、小学部中学部合同の「書き初め大会」を行いました。私が書道を続けていることもあり、係の職員から、校長に講師の依頼が来ました。私は喜んで引き受け、当日ワクワクしながらのぞみました。

書き初めの由来は、平安時代の宮中行事として行われていた「吉書始め」だと言われています。今では、正月にその年の目標を決め、画仙紙などの大きな紙に書くことになっています。

本校子どもたちの目標は、何かをお知らせします。

「やさい」・・・やさいを食べることを目標にしました。

「かくにん」・・・行動するときに、確認をしっかりとすることを目標にしました。

「上手な絵」・・・上手な絵を描きたいので、目標にしました。

「20周走る」・・・取り組んでいる周回の距離をのぼすことを目標にしました。

「時間の意識」・・・行動するときに、時間を意識して行うことを目標にしました。

子どもたち自身が、今年の目標を担任の先生と相談しながら、一生懸命考えたものです。この目標を「書き初め」するにあたり、わたしは授業の中で次のようにお願いしました。

「書くときは大きく、気持ちをこめて、はみ出すぐらいに書きましょう。」

そして、書くときの見本を見せました。体全体を使って、モーションを大きくとり、紙からはみ出るように書きました。

次は、子どもたちの番です。それぞれが、墨をたっぷり付け、紙からはみ出るように書きました。はみ出てしまっても書けなくなったら紙を継ぎ足します。勢いのある、気持ちの入った書き初め作品ができあがりました。

書くことも素晴らしかったのですが、自分が書いていないときに、友だちの書く様子を見て、「いいよ！！ その調子！！ 大丈夫！！」などと、自然にたくさんのプラスの応援を子どもたち同士で行っていました。その様子がとても素敵だと感動していました。そんなやる気アップに満ちた空間の中で、個性的な目標に向かえる書き初め作品ができあがりました。

ちょうど、青森県教育委員会の学校紹介の SNS 作成のための取材が入り、書き初め大会の様子も撮影していきました。近々公開の予定です。

子どもたちの書き初めに書かれた素晴らしい目標が達成できるよう、応援していきたいと思っています。

